

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・5月1日から、たばこの自動販売機に認識カード、タスポが必要となり、これまで来店しなかったような客が、来店するようになっていく。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・たばこの自動販売機にタスポが導入され、多くの客がコンビニに来店するようになっていく。ついで買いでちょっとした商品も売れることで、売上が伸びている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・5月1日以降はタスポが無ければ自動販売機でたばこが買えなくなったため、店内で購入する客が増え、今のところやや良い状況になっている。
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・オリンピックが近づき、映像関係の商品販売が伸びている。また、気温の高い日が続いたことから、エアコンの動きが例年よりも早くなっている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・暫定税率の問題も一段落して、在庫台数は以前の水準に戻りつつある。新型車も投入されたが高額車両のため、販売台数はそれほど伸びていないものの、来客数は伸びてきているので、今後への期待につながっている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客単価は低いものの、20代後半から30代前半にかけての若年層が、積極的に住宅建設を考えており、着工にも確実につながっている。
	変わらない	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・当店ではメタボリック対策商品の動きもあり、幸い前年売上をクリアしているものの、飲食店関係者など店に来る客は、「5月は街で大きなイベントがあるにもかかわらず、繁華街には客が流れてこない」と言っている。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	来客数の動き	・デジタルカメラなど商品販売は順調であるが、写真プリント関係は、前月の好天で花見が前倒しになった反動もあり、今月は低調である。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・食料品の売価をじわじわ上げざるを得ないものの、来客数は安定している。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・5月の平均単価をみると、野菜は中国など輸入野菜の減少や天候不順により上昇、精肉は飼料高騰に伴い上昇、惣菜も油や小麦粉など各種原料が高くなり上昇している。また、加工食品は前年比5%ほど上昇している。買上点数の減少傾向は依然として続いているが、3%強の価格上昇がカバーしている形になり、全体としては変わっていない。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・タスポの導入により、たばこの販売が1.5倍くらいにまで伸び、全体をけん引しているものの、他の商品は前年並みにとどまっていることから、この現象は一過性のものととらえている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・タスポの導入によりコンビニへの来客数は増えているものの、他の商品との買い合わせは少ない状況である。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・オリンピックの開催が近づき需要の盛り上がりがあると期待していたものの、当店の状況は3か月前と変わらずに推移している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・どの商談にも競合があり、必ずと言っていいほど条件が悪くなる。
住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・5月にもイベントを実施したが、来客数は伸び悩んでいる。客は先行きへの不安感から、買物は控えがちである。		
その他専門店〔呉服〕（経営者）	単価の動き	・生活費の上昇が続いているため、客は単価の安い品物を選ぶようになっている。		
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・日によってばらつきはあるが、アラカルト料理ばかりで客単価がまるで低い日も見受けられる。コース料理を注文する客が減ってきている。		
その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	販売量の動き	・当社の売上は前年比で95%、店舗によっては90%を下回っているところもあり、悪い状態が続いている。		

	美容室（経営者）	単価の動き	・カットのために来店した客がカラーリングも追加する、というようなプラスのオーダーが無く、客単価は低いまま推移している。先行きが不透明な情勢であり、客は計画的な支出を心掛けている様子がうかがえる。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・ガソリンが再値上げになったことなど消費者は物価の上昇を実感していることもあり、見掛け上だけではなく、数字的にも消費は明らかに減退している。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・ガソリン価格の再値上げに始まり、食料品、日用品でも値上げが相次ぎ、商店街を歩いている客についても、なぜか暗い表情に見えてしょうがない。
	一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	来客数の動き	・店に来る子供が、親の財布を心配しているような状況である。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・販売量だけではなく、来客数、客単価などすべてにおいて悪化傾向である。
	一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	単価の動き	・ガソリンを始めとして、様々な商品の価格が上昇傾向を示しており、客の買上点数が伸びない、若しくは減少している。したがって、売上は非常に厳しい局面になっている。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・中旬までは優待会などによりそれなりの数字で推移していたが、20日以降は肌寒い天候もあり、夏物の動きが非常に悪い。特に、特選プレタラインの動きが悪く、価格に対してより一層シビアになっている様子がうかがえる。
	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・前年と同様に衣料品の催事を実施したが、好調に推移したのは価格を前面に打ち出し陳列した商品である。商品を選ぶ基準は、デザインや素材などの商品特性よりも、価格を優先する客が増えてきており、これも今の世相を反映している。
	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・来客数そのものも減少しているが、その中でもフリー客が少ない。固定客については、来店しても必要最小限の物しか買わないなど、客単価が低下している。
	百貨店（経営者）	お客様の様子	・母の日プレゼントの提案はしっかりとやってきたが、前年までと比較すると、購入数の減少がみられるとともに、単価も低下傾向にある。別の商品が売れているという事は無く、消費に関しては財布のひもが相当固い、と言わざるを得ない。
	百貨店（経営者）	来客数の動き	・当店の主たる客層はミセス層であるが、その来客数に減少傾向がみられる。また、婦人服に買い控えの傾向があり、単価の面にも低調さが現れている。
	スーパー（経営者）	販売量の動き	・一連の値上げも落ち着いてきたかに思われたが、ここに来て小麦粉などを中心にもう一段の値上げが再燃している。また、ガソリンの暫定税率が復活したこともあり、個人所得が上がらないなかで、消費者の心理は冷え込み、生活防衛意識は極めて強くなっている。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・ゴールデンウィークの期間中は、県産品フェアなどが浸透し帰省客もみられたものの、連休明けは、ガソリン価格が高値に戻ったこともあり、買い控えと買い回りが進んでいる。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・値上げの影響により一品単価は前年より2%上昇したが、買上点数が約3%の大幅ダウンになっている。また、来店頻度低下による来客数減少もみられる。
スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数は増加しているものの、商品価格値上げの影響からか、客1人当たりの買上点数、客単価は悪化している。また、安い商品を買いたい求めのために、買い回りをしている様子も見受けられる。	
スーパー（店長）	来客数の動き	・原油高騰に伴うガソリン価格、光熱費の値上げに加え、小麦など原料の高騰により各種食料品の売価も上昇しているため、客の儉約ムードは高まっており厳しい状況になっている。	
スーパー（店長）	お客様の様子	・数日前には周辺の地区で小学校の運動会が開催されたにもかかわらず、高額の商品はほとんど売れていない。ガソリンの値上げが原因の一つと考えられる。	
衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・売上は前年並みを維持しているものの、客単価が著しく低下している。	

衣料品専門店 (店長)	単価の動き	・買上客数、1人当たりの買上点数は上がってきているものの、低単価商品中心の動きであり、客単価は低い状態になっている。
衣料品専門店 (総務担当)	販売量の動き	・通常は学生の需要が高まる時期であるが、今月は動きがみられず、販売数量も少ない。
衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・物価が上昇していることもあるが、天候が安定せずスーツ、ワイシャツなどの動きが鈍く、来客数は前年比8掛けの状況である。
乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・暫定税率問題、燃料高、原材料高など、自動車業界には影響が大きく、振り回されている。4月はちょっとした特需になっただけに、反動は大きいものがある。
乗用車販売店 (経営者)	単価の動き	・暫定税率の問題に振り回された1か月、という印象が残っている。ガソリンは1リッター当たり30円以上の値上げとなったが、近所のガソリンスタンドの話によると6月以降もまた大幅な値上げの予定であると言う。このような値上げムードになっているためか、車検整備でも「最低の価格でやってくれ」という客がこれまで以上に増えている。
住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・売上の減少が続いており、特に高額な物の販売が落ち込んでいる。また、県内では大手の建設会社の倒産があり、景況感はますます悪くなっている。
その他専門店 [化粧品](経営者)	来客数の動き	・先行きに対する不安、特に自分の老後に対する不安が根強く、客の動きは停滞したままである。また、建設会社の倒産などによる風評被害的な要素も加わり、市内の経済は厳しい状態となっている。
その他専門店 [パソコン](経営者)	単価の動き	・仕入原価が高くなっているのに対し、販売価格は抑えざるを得ず、収益的に苦しい状況になっている。
その他専門店 [ガソリンスタンド](営業担当)	販売量の動き	・暫定税率復活前の4月に駆け込み需要が発生した反動で、5月の販売数量は前年同月を下回っている。そのため、一部には売り急ぎの状況が発生している。また、販売価格の上昇が更なる需要減退を招き、前月と比べても、経営状況は厳しさを増している。
高級レストラン (経営者)	お客様の様子	・どんな業種の客からも、景気が良いという話は聞かれない。昨年末あたりは少し上向きの気配もあったが、それ以降はどんどん状況が悪くなっている。
一般レストラン (スタッフ)	競争相手の様子	・当社は郊外型の店舗が多い外食産業であるが、ガソリン価格が高騰しているため車での外出は控えられているのか、来客数が減少している。同業他社でも、同じような状況で、景気が悪いとのことである。
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・首都圏よりも遠方からの客が例年よりも目に付いたものの、ゴールデンウィーク以降の客の動きが良くない。
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・月末は客の動きが悪くなり、土曜日でも満室にならない場合もある。
都市型ホテル (経営者)	販売量の動き	・現在は総会シーズンの真っ直中であるが、各団体ごとに前年と比較してみると、参加人数の減少などがみられる。話によると、倒産、廃業など団体からの脱退があり会員数が減少しているとのことである。したがって、同じ単価で実施しても売上は減少するという結果になっている。
都市型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・桜の開花が早まり、5月は何も無い月になっている。前年は国体の準備などで人の動きがあったが、今年は大規模のコンベンション関係も無く、周囲の様子や客の動きは低調になっている。
都市型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・ゴールデンウィークの宿泊客は3、4日のみ満室となるが、前年に比べ室単価が下がり、売上は伸びていない。G8サミット(労相会合)では、日本以外の大臣が不参加となるなど、前評判ほどの経済効果は無く、宿泊、宴会客がこの期間の利用を避けるなどの逆効果もみられる。
都市型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・諸物価の高騰で食材、ビールが値上がりしても、販売価格に転嫁できない。
都市型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・先行きが不透明なため、客の動向はこれまでのホテル利用を見直す動きが多くなっている。「予算が取れない」という取引先も多い。

	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの月ではあったが、例年と比較すると来客数が少ない。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの日並びの悪さもあり、個人旅行の販売量が伸びずに推移している。
	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・今月に入り来客数が減少している。携帯電話は新製品の発売前であることも買い控えの一因であるが、ガソリン価格の上昇などもあり、漠然とではあるが景気の停滞も感じられる。
	遊園地（経営者）	来客数の動き	・最大の需要期であるゴールデンウィーク3日間の天候が不順だった影響が大きく、来客数は前年の実績を下回りそうである。
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年であれば4月よりは多少上向いてくる時期であるが、今月も低迷が続いており、景気の悪さを象徴している。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	お客様の様子	・お茶はし好品であるが、ランクを下げるという動きではなく、購入量をぎりぎりまで絞るという動きである。菓子類や茶碗などの商品は全く動かない状態となっているなど、客は必要の無い物は買わない。
	百貨店（営業担当）	単価の動き	・大型連休の土産、母の日ギフト、夏物衣料など、あらゆる場面で単価ダウンや購入点数の減少がみられる。この傾向はこのところ顕著であり、生活防衛意識は当分収まりそうにない。
	百貨店（経営者）	販売量の動き	・郊外へ新しい商業集積施設が3月に出店した以降は、食品部門が苦戦している。加えて、原材料価格の上昇により、客1人当たりの買上点数もダウンしている。また、ガソリン価格の上昇、気候の変動等、消費マインド低下要因の多重化により、アパレル部門の夏物衣料も不振である。高額商品の売行きも鈍っており、先行きの不透明感が増幅している。
	スーパー（経営者）	来客数の動き	・オーバーストアになっていることもあるが、基本的にはガソリン価格の高騰により、客は近くの店でしか買物しないような傾向がみられる。可処分所得が減っていることから、買上点数は8%の減少、客単価は3%の低下となっている。買上点数の減少は、商品価格の高騰も一因になっている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価には大きな変化がみられないものの、来客数は5%ほど減少している。相次ぐ商品価格の値上がり、来客数の減少につながっている。
	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・ガソリン代があまりにも高くなりすぎたため、客が買い控えをしている。
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・タスポが無ければ自動販売機でたばこが買えなくなったため、カードを持っていない客は店内入ってくるものの、他の商品も合わせて買ってもらいたいという売る側の思惑に反して、たばこしか買わない客が非常に多く、財布のひもは固くなっている。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・季節が変わり、商品も春物から夏物に移行しているが、人通りが例年より少なく、それに比例して来客数も少ないなど、以前より状況は悪くなっている。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・石油を始めとしてじわじわ上がる物価に、客の生活防衛意識が強くなっている。気温が一時的に上がったことで春物の動きにプレーキが掛かり、その後に寒さが戻ったため夏物も動かないが、「今更春物でもない」という感覚のようである。来客数は驚くほど落ち込んでいる。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・前年と比較して市場は大きく下回る。暫定税率の復活、ガソリンを始めとする諸物価の高騰が引き金となって、整備受注、車両販売共に大きく冷え込んでしまっている。その中でも法人客は、原材料や燃料の高騰が収益を圧迫しているため、車の台替え意欲が全く感じられなくなっている。
	その他専門店〔酒〕（営業担当）	販売量の動き	・連休の影響が大きかったためか、飲食店向けの落ち込みが著しい。前年に比べて10～15%以上は落ち込みそうである。予想以上に厳しい月になっている。

	その他専門店 〔白衣・ユニフォーム〕(営業担当)	販売量の動き	・衣替えの時期であり、通常の月よりは売上があるものの、発注が無くなった取引先もあるなど、全体的な落ち込みは相当大きいものがある。取引先は、様々な値上げにより経費がかさみ、収益が悪化しているところも多く、経費節減のため本当に必要な物しか買わなくなっている。	
	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕(営業担当)	お客様の様子	・暫定税率復活後は、客はお金に関して非常にシビアになり、給油する時に「1,000円分」「10リッター」と指定する客が増えている。	
	一般レストラン (経営者)	それ以外	・当店のある飲食街の夜の人口が一時期の半分になっていると、地元マスコミの調査で分かったが、まさに当店でも実感しているところである。食材の値上がりにより仕入費用が2～3割上昇しており、同業者も同様であるが、3か月前よりかなり悪くなっている。	
	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・客単価の変動は無いが、やはりガソリンの値上げが最大の影響で、予約の件数が5月中旬まで控えめに推移した。20日過ぎからは普段と変わらず予約が入っているものの、会社関係やPTAなど、季節で必ず行われるような集まりごとの予約が多く、一般消費者の利用は減ったのが数字から読み取れる。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・運転手をして26年目になるが、売上が2万円に満たない日もあるなど、今月はこれまでも最も悪い状態になっている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・客は節約に努めている様子がかえ、とにかく乗客は少なく、ここ10年でも最低の水準になっている。	
	競艇場(職員)	販売量の動き	・船券の売上は、低下傾向が止まらない。	
企業動向 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・契約解除を防ぐ目的も含まれる新サービスメニューの導入効果が、少しずつ現れ始めてきている。
		広告業協会(役員)	取引先の様子	・地元プロ野球球団の活躍も幸いして、このところラジオ広告の売上が1年数か月ぶりに好調となっている。また、徐々にイベント件数も増加しており、それに合わせた広告展開が受注量を増加させている。
	その他非製造業 〔飲食品卸売業〕(経営者)	それ以外	・1、2月ごろは、値上げしたメーカー商品の売行きが著しく悪くなっていたが、メーカーが販促金を出すなど、実質的に安くなった一部の商品は動きが良く	
変わらない	食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・原材料価格の更なる上昇が進んでいる。製品の値上げをしても前年売上の確保がやっとである。	
	土石製品製造販売 (従業員)	受注価格や販売価格の動き	・原油、原材料費の価格上昇のため、セメントの販売価格も上げざるを得ない。そのため、取引先には非常に大きい負担を強いている状況である。	
	公認会計士	取引先の様子	・今月決算申告する法人の内容をみると、赤字企業の割合が多いような印象を受けるものの、3か月前とほぼ同じ程度である。業種別では建設業が良くない。	
	コピーサービス業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・受注量や販売量は前月からあまり変化は無い。価格面でも変動は無い状態で推移している。	
やや悪くなっている	農林水産業(従業者)	それ以外	・農業用の肥料、農薬などの生産資材も、軒並み5～15%の値上げとなっており、厳しい状況になっている。	
	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・これまでは「食の安全」という観点からダメージを受けていたが、最近ではそれに加えガソリンなどを含む物価上昇による影響もあって、現在のような悪い状態になっている。	
	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・高速道路インターチェンジ付近の店舗の売上が良くないが、その一方で郊外型ショッピングセンター内の店舗は売上が良くなっている。ガソリンの値上げの影響で、遠出が控えられている可能性もある。	
	木材木製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・住宅部材の需要が少なく、価格競争も厳しくなっており、収益状況は好転していない。	
	出版・印刷・同 関連産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・例年ゴールデンウィーク後から受注が減り始めるが、今年はゴールデンウィーク前から受注が減り始めており、月間の売上に影響している。	
	出版・印刷・同 関連産業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・前年12月以降の売上は、前年同月比で毎月10%ずつ減少している。	

		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・予算立案時の仕事量が確保できていない。月を追うごとにそのギャップは拡大する傾向にある。それに加え、止まらない原油高はもはやあきらめの境地であり、状況は悪くなっているとしか考えられない。
		建設業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・既存契約の物価スライド交渉がなかなか進まない状況が続いており、物価上昇分の価格転嫁が厳しい状況となっている。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原油高騰の影響が更に大きくなり、コストは増加する一方であるが、料金の値上げ交渉は進展していない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・やや持ち直しがみられた折り込みチラシの件数は、横ばい、若しくはやや減少へと傾向が変わっている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・飼料の高騰が激しく、畜産農家は採算割れしているケースが増えている。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク後は、地元向けの出荷数が完全に失速してしまっている。ディスカウント酒店の倒産も発生するなど、小売店の体力はどんどん低下している。
	悪くなっている	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・為替が円高に定着したことによる輸出環境の悪化と、競争の激化による採算悪化に苦慮している。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・各社とも原油高の影響で経費を更に抑えている。広告費は真っ先にそのやり玉に挙がる費用であるため、発注量が激減している。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・定期的な業務であっても、受注価格の値下げ要求が強まっている。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・地元企業からの募集は相変わらず低迷しているが、オープン間近の大型商業施設の募集が始まり、動きが出ている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・企業の採用意欲が増しておらず、必要業務を現在の人員でこなそうとしている印象が強い。一部に新卒採用の動きも見受けられるが、今まで足りなかった欠員をカバーしているにとどまっている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が4か月連続で前年同月上回り、また、月間有効求職者数も6か月連続で前年同月上回っているなど、仕事不足感が続いている。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・フリーペーパーの求人広告をみる限り、新規案件が少なく「募集」が硬直化している。派遣会社の求人も同じ案件が数社にまたがって掲載されており、実質的な案件が少ないことが分かる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が前月から20%ダウンしていることが、懸念材料となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が、前年に比べて大幅に減少している。
		職業安定所（職員）	来客数の動き	・新規求人数は、全数、常用、臨時、パート共に派遣・請負求人を中心に減少している。産業別では運輸業（タクシー等）、及び飲食店（居酒屋・レストラン）が増加したが、他はすべて減少となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月と比較して約2割減少している。事業所訪問でも、事業主から明るい話題は聞かれない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は依然として減少傾向にある。特に、ここ数か月は大幅に減少している。
	悪くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・派遣から直接雇用へのシフトが止まらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業を中心に、求人の減少が続いている。